



今回は 探究活動を生かした進路実現 その5 の報告です。

◇ 江崎晃定さん（名古屋大学文学部）の体験記！

おもな活動記録

- ・2018年度 日本考古学協会高校生ポスターセッション 最優秀賞
口頭発表 代表プレゼンター
- ・2019年度 全国高校生歴史フォーラム 佳作
論文首席執筆者

私は、名古屋大学文学部推薦入試を受験し、合格することができました。私が名古屋大学文学部の推薦入試に合格することができた大きな要因があります。その要因をお話していくとともに名古屋大学を志望するようになった経緯をお伝えしていきます。

1、地域研究部の研究



まず初めに、地域研究部の説明からしていきたいと思います。地域研究部は通称：地研部と呼ばれ、部員以外の生徒からは活動内容、活動時期が不明の部活として認識されています。地研部は地域の郷土の歴史から近代史、考古学に至る時代、分野を問わない研究を行っている部活です。昨年度はプロレタリア作家であり、考古学者であった江馬修の研究と満州で活躍した考古学者の渡辺三三の研究を行いました。

私は渡辺三三の研究を行いました。研究内容は、渡辺の著作物や当時の新聞記事を読み解き、渡辺の構想していた計画を明らかにするというものでした。私は、当時の新聞記事の読み解きを行ったのですが、右から文字を読むことや、昔の書き言葉などに苦戦しました。しかし、最終的には当時の新聞記事を読み解くことができました。私は、この研究のなかで、資料の読み解き方や、考察のする力などを身に付けることができました。

次に、推薦入試に合格した要因についてお話していきたいと思います。その要因は、地域研究部で行った渡辺三三の研究が評価されたことにあると考えています。一昨年度には奈良大学で開催される全国高校生歴史フォーラムにおいて学長賞をいただき、昨年度は同大会において入選することができました。このような大会で評価された点は高校生で大学で行う研究を行った点であると考えています。具体的には、資料の読み解き、遺物の実測やトレース、フィールドワーク、そして研究内容を論文としてまとめ、発表したことです。そして結果的に渡辺三三の研究が評価されたと考えています。

2、進路実現

私の将来の夢は教育関連の出版社に入り、歴史関係の教科書や参考書を編集することです。そのため、進学する学部は文学部の史学科と決めていました。しかし、いつの時代を専攻するのか

はまだ決めていなかったため、志望する大学は候補はあるものの具体的には決まっていませんでした。そのような中地域研究部の研究のなかで満州について研究する機会があり、満州について関心を持つようになりました。

そして、3年生のはじめには近代史特に満州の歴史を専攻することに決めました。専攻がきまったので大学で近代史の特に朝鮮や中国東北部の研究している大学を探すと、名古屋大学が出てきました。しかし、自分の現在の学力では名古屋大学に進学できる力はありませんでした。そんなとき、担任の上野智子先生より、名古屋大学文学部の推薦入試のお話をしていただき、自分の強味をいかせる推薦入試を受験することに決めました。

名古屋大学文学部の推薦入試はセンター試験を課さず、英語の文章を読み、日本語で和訳や要約、自分の意見を述べる筆記試験と面接試験がありました。筆記試験に関しては英語科の市原賢優先生に添削をしていただき、面接試験に関しては地歴公民科の林直樹先生にご指導をしていただきました。試験当日はお二人にご指導いただいたおかげで筆記に関してはすべて書ききることができ、面接に関しては試験官の質問に戸惑うことなく自分の強味を発表することができました。

私自身、この合格は自分ひとりの力では到底達成することのできないものであったと感じています。先生方の温かいご支援のもとにこの合格があると感じています。

3、最後に

私が地域研究部で行った研究も SGH 研究活動の一環として行われています。関高校には部活動だけでなく、授業の中でも SGH 研究活動が盛んにおこなわれています。そのような SGH の活動を自分の強味とし、大学入学のツールとして活用することをこの本文を読んで考えていただければ幸いです。

